

副詞“就”

——単文・複文を通して——

宮 本 厚 子

提 要

笔者在宫本（2010）中已探讨过现代汉语副词“就”在复句中的一些用法。本文不仅对复句，对单句也进行了探讨，并归纳出了几个用法。单句的用法有三个；1. 限定范围，2. 向导，3. 时间上承接。在复句中，很多“就”表“时间上承接”的意义；如“一 p 就 q”、“因为 p 就 q”等格式中的“就”。条件句里的“就”当然也是该功能的“就”，但有一部分“就”则不是表时间上承接的，而是起“向导”作用的“就”。这种“就”在复句中对句子产生假设的意义。

0 はじめに

筆者は宮本（2010）において、複文における“就”について考察を試みた。今回は単文における“就”について、また複文のについても、改めて取り組み、副詞“就”の働きについて全体的に捉えようと試みた。“就”のある文を“p 就 q”とし、pを“就”の前にある成分、qを後ろの成分とする。

1 単文における“就”

①限定用法、②導く用法、③時間に関わる用法の三つに分類し、それぞれの機能について考える。

1. 1 限定用法

“就”の後ろに来る成分 q の数量詞、名詞、動詞などを他にある範列成分の中から、区別して限定する用法である。よく比較される“才”や“只”とどのような相違があるのかについて考察し、“就”の特徴を明らかにしたい。《現代汉语八百词》(以下《八百词》)では、それぞれの副詞を次のように説明している。

“才” “表示数量少，程度低；只。”

“只” “表示除此以外没有别的。”

“就” “确定范围；只。”

“才”も“就”も“只”であると説明されているが、それぞれ少しずつ説明が違う。どこでつながって、どこが違うのかを考察する。

1. 1. 1 “才”との比較

まずは“才”の現れる文を、“p 才 q”とする。p は“才”より前に現れる成分、q は後ろの成分である。“才”のある文は、単文であれ複文であれ、一部の拡張表現を除いて¹、普通「p の条件下でやっ と q である」という意味を表わす。

“才”のある文では、q は数量を表わす語があるか、あるいはある基準に基づき段階的に並んだ複数個の成分のうちの一つがあるかのどちらかである。“只”、“就”と入れ替えられるのは、下の例のような数量の場合である。どちらも想定した数量²に足りないことをいっている。例 1 は分配に必要な量、例 2 は午前中のノルマ 17 人が想定した数量である。

1) 一共才十个，不够分配的。(八)

全部で十個しかないので、分配するのに足りない。

2) 一个上午要看完十七个病人，今天她才叫了七个号。(中)

午前中で 17 人の患者を診察しなければならないのに、今日彼女はやっ と 7 人診ただけだった。

“只”、“就”の場合は、「想定した数量」は存在せず、「q の数量だけ～だ」とあるということを用いた表現である。

副詞“就”

邵敬敏（1997）は次のように例をあげて“就”と“才”の違いを説明している。

3) 我就有五块钱。

私は5元しか持っていない。

4) 我才有五块钱。

私はやっと5元しか持っていない。

‘用“就”表示“仅仅”，在数量上作了限制，是一种比较客观的陈述；用“才”则还表示说话人在主观上认为钱太少了，暗示“本来应该比这个多。’この“本来应该比这个多”（本来はこれよりも多はずだ）というのは、話者にはもっと大きな想定した数量があるということであろう。

また、この場合“才”がかかるのは数量のみにであって、名詞は含まれない。

“才”が名詞にかかるのは次のような場合である。

5) 才星期二，还早呢。（八）

まだ火曜日だ、まだ早いよ。

6) 他才是个中学生，你不能要求太高。（八）

彼はまだ中学生だから、高く求めてはいけない。

上の二例のqはある基準に基づいて段階的に並んだ成分のうちの一つである。例5の場合、火曜日から順に土曜、日曜、そして次の週と並んでいく成分は、早い→遅いという基準に基づいて並んだ成分である。例6の“中学生”は“小学生”“中学生”“大学生”という学生の教育段階別に並ぶグループの一員で、比較的低い段階にある。この文での“中学生”は学生の中のレベルと考えられる。また人の一生のうちの学生という早い時期、人としての成熟度から見て低いレベルにあるというふうにも理解できる。この用法は、ある時点についていうもので、「その時点でやっとqの段階である」ということをいう表現である。上の二例のように示されていない場合は、発話時が基準の時点となる。次の例は、“才”よりも前で“抗日战争的时候”という時間を示し、qは数字で、その時の段階を示している。

7) 抗日战争的时候, 东北有个小猎人, 名字叫做阿牛。他才十五岁, 又勇敢又聪明, 在东北抗日联军里当通讯员。(3)

日中戦争の時、東北に阿牛という名前の若い狩人がいた。彼はまだ15歳だったが、勇敢で聡明で、東北の抗日連軍で通信員をしていた。

例1、2ではqでは「量」であったのにたいし、この用法でのqは年齢で、並んだ数である。これらの“才”は“只”, “就”に置き換えることはできない。

1. 1. 2 “只”との比較

“就”はqにフォーカスし、限定する表現である。ちょうどスポットライトがqだけを照らすので、その他に存在する範列関係にある成分はそこに存在するが、暗闇の中におかれているといった具合である。例えば、マクドナルドの宣伝を見てみよう。

8) 我就喜欢(麦当劳)。

マックが好き。

例文の丸括弧の中は、筆者が補ったものであるが、省略されていると考えられる。マクドナルドにのみスポットライトが当たり、その他の〇〇バーガーや××バーガーは暗闇の中に沈んでしまう。だからといって、それを排除しているわけでもない。

9) 别听他的, 他这个人就喜欢开玩笑。(高)

彼の言うこと聞いちゃだめ。彼って人は冗談が大好きなんだから。

冗談だけが好きなわけではない、そこにフォーカスしているのである。

以下の二つの例を見てみよう。“就”は“我们两个人”にフォーカスしていて「二人っきり」であることを言いたいのに対して、“只”は“刘小青”はいなくて“只有我们两个人”だと排除される成分も同時に示されている。

10) 外面天气晴朗, 其他伤病员都出去散步了, 病房里就我们两个人。真好, 谁都没有去找话题, 连搓棉花的声响都清晰悦耳, 我们只是偶尔抬起头来对视一下, 然后传递一个会心的眼神。(语)

副詞“就”

外は天気がよく、他の患者はみな散歩に出かけたので、病室の中は私たち二人だけだった。なんてすばらしいんだ。どちらも強いてはしゃべらず、綿をよって綿棒を作る音さえはつきりと聞こえ、耳に心地よかった。私たちはただ時々顔を上げ見つめあい、それから気持ちを察したというまなざしを送った。

- 11) 翌日上午, 我看到国庆胆怯地走过来, 用讨好的语气问我愿不愿意上他家楼上去看风景, 我立刻答应了。这一次他没叫上刘小青, 只有我们两个人。在走去的路, 他轻声恳求我, 别把那事告诉他父亲。(语)

翌日の午前、僕は国慶がびくびくしながらやってくるのを見た。おもねるような口調で彼の家の上へ景色を見に行かないかと尋ねたので、僕はすぐ応諾した。この時彼は劉小青を呼ぶことができず、僕たち二人しかいなかった。道々、彼は僕にあのことを彼の父に言わないでくれと小さな声で懇願した。

“只”は《八百詞》にもあるように、限定する以外のものを排除するが、“就”は排除しない。

井田(2003)は“就”が限定する数は必ずしも小さいとは限らず、「数が少ない」という意味を表すのは文脈からであるといって次の例をあげている。

- 12) 这个药就吃两个, 一个、三个都不行。

この薬は二つだけ飲むんです。一つでも三つでもいけません。

“就”はその限定した成分だけにスポットを当てているといえる。

1. 1. 3 “就”の限定的な機能

齊春紅(2008)は、この用法のその成立は、明代に始まる“只”との連用に関係するという。“只”と共に使われる時、“就”はただの強調で、限定の作用は“只”よって担われていたが、そのうちに“就”も“只”の影響を受け、“確定範囲”の意味を持つようになったのだというのである。そしてその連用は今も続いているとして以下の例をあげている。

- 13) 客人当然说, 菜太丰了, 就只几个人, 怕吃不下许多。(钱钟书《围城》)
客は当然、料理がたくさんあって、たった数人では、ずいぶん食べ残してしまふかもしれないと言う。

齐春红(2008)では、この用法の“就”を限定用法とはせず、“强调”を表わすとし、もう少し大きな範囲で考えている。例えば“就”にストレスがあることを理由に、《八百词》で“加强肯定”の項の一つ“表示意志坚决, 不容改变”と規定しているものも、“强调”の用法の一としている。

- 14) “我有什么对不起你?” 她冲我喊, “什么没给你? 你还想要什么? 还想要什么” 我恨的就是这句话。“不许喊。”“就喊, 啊---”(空)

「あなたに謝らなきゃならないことなんてないわ」彼女は私に向かって叫んだ。「何だってあげたじゃない。まだ何が欲しいの、まだ何が」私がいやなのはまさしくこの言葉だった。「叫ぶな」「叫んでやる、あー」

この例は、筆者が集めた例であるが、限定される対象が肯定か否定か、即ち「叫ぶ」か「叫ばない」という二つのうちの一つである。範列関係にある成分が、複数ではなく、一つだけだということである。限定用法の一つと考えられるであろう。

次の例は、話者の意志とは関係がないが、上であげたと同じ、肯定か否定か、即ち「ある」か「ない」かのうちの一つを限定している。

- 15) “我没有初恋。”韩丽婷干巴巴地回答。“人人都有, 单相思也算。”“可我就是没有, 单相思也没有!”(无)

「私は初恋したことがないんです」韓麗婷がそっけなく答えた。「どの人にも皆あるはずだ。片思いだっていいんだよ」「でも私はないんです。片思いもありません」

対立する項の一項に限定する場合、二つの項は、“就”の前までに提示され、しかも話者は“就”で限定する一方を始めから支持していなければならない。

1. 2 導く用法

次に、取り上げる用法は、「pがq（の一部）と一致する」ということを表わすものである。いくつかのパターンを、旧情報と新情報という概念で整理してみる。

1. 2. 1 旧情報+“就”+旧情報

16) “今天的会议有四个议程。第一由中赛委秘书处秘书长赵航宇同志向各位股东汇报前一阶段中赛委秘书处的工作情况；(略)” 这是个可容纳上千人的剧场，剧场座位上空空荡荡。舞台摆着一张大圆桌，与会者紧紧挨着坐成一圈，一束追光斜射在会议主持人脸上，他是个非常漂亮的小伙子。

追光移动，打在坐在主持人身边的一个头发蓬乱脸色苍白戴着眼镜的男人脸上，他的眼镜反着光使人几乎看不到他的眼睛。从他吐字飞快近乎剧烈咀嚼的嘴部动作看他是个容易激动的人。他就是中赛委秘书长赵航宇。

(千)

「今日の会議には四つの議事次第があります。最初に中賽委員秘書部の秘書長趙航宇さんが株主の皆様これまでの中賽委員秘書部の業務状況についてご報告いたします。(略)」ここは数千人を収納可能な劇場で、劇場の座席はがらんとしている。舞台には大きな丸い机が置かれ、会議参加者はテーブルの周りにつめて座っている。一筋のスポットライトが会議司会者の顔を斜めから照らしているが、その人はとてもハンサムな若者である。スポットライトが移動し、司会者の隣に座っている一人の髪がぼさぼさで顔の色が蒼白で眼鏡をかけた男の顔を照らした。彼の眼鏡が光に反射して彼の眼はよく見えない。話すのが早いめほとんど激しく咀嚼するような口の動きからすると、彼は興奮しやすい人のようだ。彼が他でもない中賽委員秘書部長趙航宇である。

まずは、司会者の議事日程の説明の中に、“中赛委秘书处秘书长赵航宇”が登場し、その後その会議が行われている場面の説明がある。スポットライトが司会者からその隣に座っている眼鏡の男の顔に移り、“他就是中赛委秘书长赵航宇”「彼が“中赛委秘书处秘书长赵航宇”だ」と説明する。“赵航宇”を甲、

「眼鏡の男」を乙とすると、まず甲の名前のみが提示され、次に乙の姿が示され、最後に「その乙が甲なのだ」と説明する。甲も乙も“乙就是甲”という文の中では、旧情報である。中国語では、一般的には動詞よりも前に旧情報が置かれ、動詞より後に新情報が置かれるとされる。“p 是 q”は、普通 p が旧情報で q が新情報である。しかし上で見た“p 就是 q”の場合、どちらもが旧情報である。それ以前に話し手にも聞き手にもそれを特定できる情報がすでにあり、直前で出てきた p はそれ以前に知っている q であるということを示している。“就”はそれ以前に聞き手が持っている情報の中の事物から一つを選んでそこに導く役割をしているといえるだろう。

1. 2. 2 新情報+“就”+旧情報

次に見るのは、“p 就 q”の p が新情報、q が旧情報の場合である。通常の文とは新、旧情報の位置が逆である。

17) 谁是北京人？—我就是北京人。(玄宜青 1993)

だれか北京の人いますか。—私が北京の人です。

玄宜青 (1993) では「ある範囲において、唯一ではないが、条件にあってあるものの一つであることを表わす」としている。そして玄宜青 (1993) 以外に、邵敬敏 (1990)、石田 (1993) 井田 (2003) が、それぞれ表現に違いはあるものの、皆“就”はその前の成分 p にかかるものであるとしている。

しかし、本稿では“就”は q にかかるものであると考え、上の例は「私がまさしく（その条件にあう）北京の人です」と考えることにする。q がそれまでに話題に上っていて、聞き手が何を指しているのかわかるというのは、上で見た例と同じである。“就”が q にかかるものと考えても差し支えないだろう。この用法が例 16 と違うのは p がここで始めて聞き手に示される新情報である点である。一般的に、文の焦点は新情報にあり、この文でも新情報に焦点があるのであるが、通常と違うのは動詞よりも前に置かれていることである。動詞の前にありながら新情報であることを表わすために、ストレスを用いている。p にストレスを置き、新情報がそこにあることを示しているのである。

副詞“就”

この用法には、他の「導く用法」との相違点がある。qの動詞が他の用法は多くが“是”や一部の非動作動詞であるのに対して、どんな動詞も来うことである。また多義文となり、ストレスの位置によっては、限定用法ともなりうる。

1. 2. 3 “就” + 新情報

次に見るのは、qが文あるいは発話の中で既に示されたものではないが、皆が知っている、よって聞き手にとってもよくわかる物あるいは概念である場合である。

18) 人家都说“隔辈亲、隔辈亲”，他爸爸就是个典型。(高)

「孫は可愛い」って皆言うけど、お父さんはその典型ね。

19) 猫只生小猫，不会生小狗；孩子常常长得像父母，这就叫遗传。(语)

猫は子猫しか産まず、子犬は産まない。よく子供は両親に似ている。これが遺伝と呼ばれるものである。

この用法は、“就”がガイドの役割をしていて、“就”があることで、pと結びことのできるqは聞き手の情報のどこかにあることを察知させ、何をさしているのかすぐにわかるようにしているのである。

20) 这儿就是我们学校。(八)

ここが私の学校です。

話題として“我们学校”は新しい情報である。しかし、話者にとって自分の学校は身近で、聞き手も話者の通っている学校がどこにあるかは知らなくても、通っている学校があることを承知している。「身近なもの」はよく知っているものである。

1. 2. 4 説明に導く“就”

pを言い換え、説明する場合にも“就”は用いられる。

21) 鼻炎，就是鼻子里的粘膜发炎。(医)

鼻炎とは、即ち鼻の中の粘膜が炎症することである。

1. 3 時間に関わる用法

時間に関わる用法としては、① q の行為がすぐに行われることをいう用法と②二つの行為が連続して行われることをいう用法の二つがある。どちらの用法にも、単文と複文の両方が見られる。

① q の行為がすぐに行われることをいう用法

22) 足球联赛明天就开始。(八)

サッカーのリーグ戦は明日もう始まる。

23) 卢书记, 我十一年前就见过您! (刘)

盧書記、私は 11 年前にすでにお目にかかったことがあります。

例 22 と 23 は q が名詞性の成分で、単文である。どちらも“就”はなくても文は成り立つ。あれば p の時間が早いと思っていることが付加される。遅いと感じている時には“就”ではなく、“才”が用いられる。

②二つの行為が連続して行われることをいう用法

単文と複文両方がある。

24) 说完就走。(八)

言い終わると行ってしまった。

25) 我告诉他我晚点回去, 就挂了电话。(一)

私は帰りが遅くなるのを彼に告げると、電話を切った。

①と②の二つの用法は、実は同じものである。p が静態か、動態かの違いしかなく、p の命題が満たされれば間を置くことなく q の行為が行われるということである。よって、以下では、この二つを同じものとして、「時間に関わる用法」と呼ぶ。

次の二例も、同様の用法である。

26) 这个方案没有经过认真的讨论, 就稀里糊涂地通过了。(现代汉语大词典)

この法案はきちんと討論されないまま、いいかげんに通過した。

副詞“就”

pで示された命題に対して、低い条件であると話者は感じている。もし達成することが難しい高い条件と感じる命題であれば、“就”ではなく“才”を用いることになる。

27) 他就要了三张票（，没剩几张了）。（八） 括弧は筆者。

彼だけで三枚も欲しいといった（ので、何枚ものこっていない）。

pの条件が低いものであるのは、例26と同じである。ストレスは“他”にある。括弧の部分のない文は多義文で、“就”を限定用法ともとることができ、その場合は“就”にストレスがある³。

2 複文における“就”

2.1 “一 p 就 q”

“一 p 就 q”の“就”もまた、時間に関わる用法である。“一”は、「短い時量」を表わし、「文法機能としてはアスペクト担う」というのが近年の主流であると、島津（2011）はいうが、本稿では“一”の文法的な機能については扱わない。殷志平（1999）が下の二つの例を比べ、例28の方が例29よりも時間軸の上で左にあるもの（早い）であるとしている。本稿では“一 v”は“v了”と平行的であるものとする。

28) 一看就回来。

見るなりすぐ帰ってくる。

29) 看了就回来。

見たらすぐ帰ってくる。

一つの文型として“一 p”に続いて必ず“就 q”が後続するように考えられがちであるが、実際は後件に“就”が見られない例も多数見られる。“就”がある場合とない場合を考察することによって、“就”の持つ働きについて考える。まずは、“就”のある例を見る。

- 30) 那天一回家，我就开始读这本《正义永存》。(语)

その日家に帰ると、私はすぐこの『正義永存』を読み始めた。

- 31) 每天清晨，匆匆地起床，大人上班，女儿去幼儿园。晚上回家就打开电视，安抚女儿进入卡通世界，妻和我匆匆忙忙弄好晚餐，然后稀里糊涂地填饱肚子。(语)

毎朝、あわただしく起き出すと、大人は出勤、娘は幼稚園に行く。夜家に帰るやテレビをつけ、娘がアニメの世界に入っていけるようあやし、妻と私は慌しく夕食を整え、そのあと適当に腹に詰め込んでいく。

- 32) “…。我就爱看书，一看书就哭。”(椽)

「…。私はとにかく本が好きなんです。本を読むと泣いてしまうんです。」

例 30 から 32 まで、どれも「p が行われると q がすぐに行われる (なる)」ことをいっている。例 30 は一回性の個別の行為についていっているので、「すぐ」の意味のみであるが、例 31、32 はそれと同時に「p の行為が行われるといつも q が行われる (なる)」という意味も含意する。個別の一回性の行為というのではなく、習慣的に「いつも」こうであるといっている。

次に、“就” のない例を見る。

- 33) 她一急起来，把要说的话全忘了。(島津 2011)

彼女はあせると、言おうとしていた話を皆忘れてしまった。

この例に“就”をつけるなら、“要说的”をとり、下のようにする方がよい。

- 34) 她一急起来，就把话全忘了。

例 34 も例 33 と同様、一回性の個別の事態をいう文である。意味上の目的語“话”に“要说的”という修飾語があると、“一 p 就 q”の p と q の関係の緊密性が失われるという。“就”がない“一 p”の文は、例 35 の前節の“往旁边”という状語や、例 36 の“骨碌骨碌”や 37 の“朗声”という後節の状語のような描写性の高い修飾語がある文である。

- 35) 这是怎么回事呀？原来老狼朝小野兔扑来的时候，小野兔往旁边一跳，老狼没扑住它，倒是掉到一个很深很深的土坑里去了。(3)

副詞“就”

これはどうしたことかと思ったら、なんだ、狼がチビ野兎に飛び掛ってきた時、野ウサギはそばにひょいっと飛び、狼は兎を捕まえられず、深い穴に落ちちゃったのか。

- 36) 小刺猬可跑不快，把身子一缩，骨碌骨碌滚下山坡来。(3)

ハリネズミはでも速く走れないので、体を縮めるところと山の斜面をころがり下りて来た。

- 37) 温家宝一听，朗声笑道：“不算远，那我们就走去。”(语)

温家宝は聞くと、大きくよく通る声で笑っていった。「遠いとはいえない。じゃあ、我々は歩いていこう」と。

次の例も“就”はない。

- 38) 今早一看新闻，国际金价突破 1100 美元大关了！（网）

今朝新聞を見ると、国際的な金価格が 1100 米ドルの大台を突破していた。

しかし、後件に“知道”などの動詞をおぎなつてやると“就”をつけることはでき、上で見たものとは違うタイプであることが分かる⁴。

2. 2 “因为 p 就 q”

宮本（2010）において、“因为 p 就 q”の項において、q は動態であるとした。また“因为”など接続詞はないが、p と q に原因・理由とその結果・結論の関係がある場合、p が先に発生しそれを受けて q の行為が行われるといった時間的な関係があることも指摘した。

しかし、すでに王维贤（1994）で以下の例をあげて“因为 p 就 q”の“就”は時間の二つの行為が連続して行われることをいう用法であることが指摘されていた。

- 39) 我因为看出他有点儿伤感，便向他作了详细解释。

私は彼がちょっと物さびしそうなのに気づいたので、彼に詳しい説明をした。

“便”は“就”と置き換えられる。p と q の間には因果関係はあるが、それは文の意味からくるものであって、“便”は時間に関わるもの、p の行為の後

すぐに q が行われたということをいう文だという。同時に、次のような、“才”を使った p と q の間がスムーズではない例をあげている。

40) 由于开后门，她才住进了医院。

裏口を使って、彼女はようやく入院した。

2. 3 条件文における“就”

条件文“p 就 q”を①単純条件文と②仮定条件文の二つに分類する。

2. 3. 1 単純条件文

単純条件文とは、p と q の関係が「p ならば q である」というものである。例 41 では、p の行為が行われれば q という結果になるという、p と q の行為は一つの時間の流れの中にある。“就”は時間に関わる“就”であり、“因为 p 就 q”が已然なら、これは未然を表す。

41) 您看了就会知道。是个女犯，政治犯。(语)

ご覧になれば、分かります。女性犯人です。政治犯です。

次の二例も同様である。例 42 は“装上滚球轴承”した結果、“变得轻便”という結果が現れるのであり、例 43 は“不按照气候规律穿脱衣服”が原因で“会闹病”が結果である。

42) 什么车轮装上了滚珠轴承，就变得轻便了。(物)

なぜ車輪は玉軸受けを装着すると、軽くて便利になるのか。

43) 不按照气候规律穿脱衣服，就会闹病。(医)

気候の法則に従って服を着たり脱いだりしないと、病気になる。

“只要 p 就 q”も単純条件文である。

44) 只要下功夫，你就一定能学会。(八)

努力しさえすれば、君はきっとマスターできる。

p の条件が低いと話者は考えている。もし、p の条件が高いと話者が考える場合（唯一条件の場合もあるが）は“只有 p 才 q”を用いる。

井上（2003）、王维贤（1994）では条件文における“就”をすべて時間に関わる“就”であると考えているようであるが、 p と q の関係が時間の流れとは関係の無い条件文も存在する。次の項で詳しく考察する。

2. 3. 2 仮定条件文

次のような例文は、 p と q の関係がはっきりとした時間の流れの中にある。

45) 要是他不去，我就去。

もし彼が行かないのであれば、私は行く。

これらの文は、 p の条件が単なる条件ではなく、「もし」という仮定の意味を持つ。仮定と条件の違いは、仮定はその条件が実現した時（実現を望まない場合も含む）についていっているという点である。条件文はただ単に条件を設定するだけで、その実現については意識していない。仮定条件文では、先にも述べた通り、 p と q は同じ時間の流れの中ではなく、「 p ならば q 」と、 p と q を1対1で対応させることにあるといえる。これは単文でみた「導く用法」と同じである。 p_1 が q_1 と対応するならば、 p_1 と範列的な関係にある条件、 p_2 、 p_3 …にも、それぞれ q_2 、 q_3 …の結果があることが想定される。つまり“就”を用い、一組の仮定を示すことで、 p_1 と範列的な条件をも想起させるのである。例45の場合、“就”によって「“他不去”なら“我去”だ」という1対1の対応が生じる。すると“他不去”と範列関係のある条件として一番先に考えられるのはやはり否定形“他去”であろうが、その条件については異なる結果が得られるということが示唆されるのである。例45からは言外に「彼が行くなら私は行かない」という命題が透けて見える。

仮定の意味は、範列的な関係を持つ条件が存在することで自然に出てくる。一つの条件に一つの結果、しかも条件は範列的な関係にあるのであるから、どちらをも現実とするのではなく、仮定の意味を持つことになるといえよう。以下の例がそうである。

46) 他说，如果你是北方人我就换给你，如果是南方人就要考虑考虑。(高)

もしあなたが北方の人であるなら、私は交換してあげます。もしあなたが南方の人なら、ちょっと考えさせてもらいます。

買い物から帰って不良品に気づき、もう一度店に戻った時の店員の言葉である。

また、仮定の意味は“如果”からきているのではない。なぜなら、“如果”をとっても文は成立するからである。

仮定条件文をいくつかあげる。

47) “要是死树就好办了，问题是它还活着！”(枯)

「もし枯れた木ならやりやすかった。問題はそれがまだ生きているということなんだ」

反実仮想といわれるものである。事実とは逆の“死樹”であった場合について述べているのだが、実際がどうであるのかも示唆している。

48) 明天天气不好，我们就不去长城了。(井上 2003)

明日天气が悪ければ、私たちは万里の長城に行かない。

同じ時間の流れの中にあるので、単純条件文のようにみえるが、仮定をいう仮定条件文である。「天气がよければ行く」のである。

このように p と範列関係にある条件が見え隠れし、しかもその結果は q とは違う別の結果である。もし、 q が同じ命題ならば、“就”ではなく“也”などが用いられる。

49) “春捂秋冻”这句话是有一定的科学道理，但是也要从实际出发。如果初春天气相当热时还捂着棉衣；初秋的天气相当凉时照常穿着单衣，这样也会闹病。(医)

「春は厚着、秋は薄着」というこの言葉は、一定の科学的な道理がある。しかしやはり実際から出発しなければならない。もし春の初めにかなり暑い時にも厚着をする、あるいは初秋のかなり涼しい時にいつものように薄着をするならば、やはり病気になるのである。

副詞“就”

この文は例 43（不按照气候规律穿脱衣服，就会闹病。）と関連付けてみて欲しい。「春は厚着、秋は薄着」に則って服を着るが p_1 、“会闹病”が q_1 、一方“初春天气相当热时还捂着棉衣；初秋的天气相当凉时照常穿着单衣”が p_2 で q_2 は p_1 と同じ“会闹病”なので“就”ではなく、“也”が用いられている。

単純条件文の場合は、 p が普通、動作動詞であるのに対して、仮定条件文の場合は、形容詞や動詞であっても静態を表わすものが多いようだ。それは、条件文が一つの時間の流れの中にあるのに対して、仮定条件文はある局面を切り取ったものでもかまわないからであろう。

次のような“就”も、この仮定条件文の“就”と同じである。

50) 夏天，整个人体的新陈代谢速度加快，所以头发也长得快些，冬天就慢些。
(医)

夏は、人体全体の新陳代謝の速度が加速し、そのため頭髮も伸びるのが早いが、冬は遅い。

夏については条件文ではなく、陳述文である。それに続けて、夏と対立する項、冬を話題として出す時に、“就”を用いている。「冬についていう」といった、 p を主題化する働きがあるといえる。時間に関わる“就”でみた例 27 とは、形は似ているが、例 50 には p を低い条件であるという意味がない点で異なる。 p はただ主題として提示されている。

27) 他就要了三张票（，没剩几张了）。

2. 3. 4

筆者は、宮本（2010）で条件文の“就”について①必要な場合、②あってもなくても成立する場合、③“就”と共起しない場合の三つに分けその条件を探った。そして“就”が共起するかどうかは、次の二つ条件を満たしているかどうかによることを述べた。

I p と q が原因とその結果の関係、因果関係になっている。

Ⅱ 「 p であれば q である」という命題を示すと同時に、その裏である「 p でなければ q である」をも示唆している。

この時には、条件文と仮定条件文には分けておらず一緒に考えていた。Ⅰの因果関係は、単純条件文においては不可欠なものである。Ⅱは仮定条件文における条件に関係するものであるが、必ずしも「命題の裏」である必要はなく、 p と範列関係にある条件があるということによいということがわかった。“就”のないものを含め、条件文はその種類も多岐にわたり、他の接続詞やその他述語の形態など考えなければ成らないことが多く、また機会を改めて、条件文全体として考察していきたいと考えている。

3 まとめ

“就”の働きは何かというと、一言でいえば「指す」ということではないだろうか。限定用法のように、「これだけ」と他のものの存在を無視して指す時もある。前にはあげたものをそれに合うものに導いて後ろのものを指すこともある。それは、前のものと後ろのものが一致するものであるときもある。条件と結果であることもある。時間の流れの上で、すばやく次のものと結びあわせるのは、指すという感じはしないが、前に起こったことと後ろのこととの間に、原因と結果の関係があれば、指すというもおかしなことではないように思える。また、前の条件にあうものを指し示し、仮定条件文を作ることもある。ただ、“就”は多種多様なところに顔を出し、ここで指摘した以外の用法もまだあるような気配もある。これからも、注視していきたい。

(注)

1. 拡張表現とは《八百词》でいう、“这才好呢！”などの程度の高いことをいうものである。
2. 陈立民（2005）は p にくる数について、“预期条件”と比べるということをしているが、 q についても同じことがいえる。

3.《八百词》P317

4.《八百词》P600

< 用例出典 >

- (八)《现代汉语八百词 增订本》1999年,商务印书馆。
(医)《十万个为什么》医学 1,2 1980年,少年儿童出版社。
(物)《十万个为什么》物理 1 1980年,少年儿童出版社。
(3)《365夜故事》上下 少年儿童出版社。
(空)《空中小姐》王朔,亦凡公益图书馆。
(无)《无人喝采》王朔,亦凡公益图书馆。
(橡)《橡皮人》王朔,亦凡公益图书馆。
(千)《千万别把我当人》王朔,亦凡公益图书馆。
(一)《一半是火焰,一半是海水》王朔,亦凡公益图书馆。
(中)《人到中年》谌容,亦凡公益图书馆。
(刘)《刘心武代表作》1989年,河南人民出版社。
(高)《高级汉语口语 上册》1997年,北京大学出版社。
(枯)《枯树》《一分钟小说选注》1987年,北京语言学院出版社。
(语)北京大学汉语语言学研究中心语料库。
(网) <http://www.baidu.com>

印のないのは作例

< 参考文献 >

- 邵敬敏 1990. 〈副词在句法结构中的指向初探〉,《汉语论丛》,华东师范大学出版社, P52-66
石田知子 1993. 「试说汉语中的副词“就”」,『お茶の水女子大学中国文学会報』第12号, P15-29
玄宜青 1993. 「“就”の取り立て用法について」,『法政大学教養部紀要(外国語学・外国文学編)』85, P181-193

- 王维贤其他 1994. 《现代汉语复句新解》，P136-137
- 邵敬敏 1997. 〈从“才”看语义与句法的互相制约关系〉，《汉语学习》，第3期，P3-7
- 殷志平 1999. 〈动词前成分“一”的探讨〉，《中国语文》，2期，P116-121
- 吕叔湘主编 1999. 《现代汉语八百词 增订本》商务印书馆
- 井田みずほ 2003. 「副詞“才”の取り立て機能について」、『中国語学』250号，P190-210
- 井上優 2003. 「文接続の比較対照」，月刊『言語』Vol.32・No.3
- 陈立民 2005. 〈也说“就”和“才”〉，《当代语言学》第7卷，第1期，P16-34
- 齐春红 2008. 《现代汉语语气副词研究》，云南人民出版社 P212-222
- 宮本厚子 2010. 「現代中国語の副詞“就”」，『外国語論集』第9号，駒澤大学総合教育研究部外国語第1・第2部門，P61-71
- 島津幸子 2011. 「動詞に前置される“一”の文法機能と意味」，『中国語学』258号，P194-212